まず何よりお礼。詩集〈ぼくについて〉買って下さって下さってほんまにありがとう。イオム通信97号で予約のことをかいたら、それから十日間あまり、連日何通もの申込みがあって、それに添えた手紙などをよびたびに、ああ、疲れとく情もつらくがないナタと胸がつまりました。ありがとサンです。

やっと今日、印刷所から発送屋の手で送られてきました。全部で330kg八つの梱にはいって。ウリ事務所前の小路は車がはいらず、通りまで50メートル、そこから一つ30kgのそのそかついで、フウフウ汗をかきました。(丁度猫そいず、おう子さんはビンソクで…)ともかく早速お届けします。(みていたら落帳・乱帳など一冊みつけました。万一お送りした中にそれがあったらお知らせ下さい。取替えます)

この詩集は、40年ちかく詩をかいてきたぼくの、はじめて出す〈詩集〉です。(もっとも十数年前、限定195部の『日本』という詩集を出したほか、アンソロジーとして『戦争』『平和』『イオム同盟詩集』その他では『アンチスト詩集』などを挙げると、はじめてということにはなれへんけど)

そしておそらく、今後こんなふうな〈詩集〉そのものの意味として出すということは、もう今後はないやろーというそこでは、多分、ぼくの最後の〈詩集〉ということになるーと気がします。

(忠べっいと)

いま、この一冊を自分の掌の上にのせて、小さく軽いけど
呟いてくような重みを感じながら、やっぱりうれしく、ウフフと
いう感じ。自分でソーテイした表紙の出来にもおあ満足です。
(これの印刷の出来(みるえ)が心配で、どうについての色もうすこし黄がか
つたオレンジ指定してたんやけど。但し表紙の背、「どうについて」
が脱落していてアッと云ったがあとの祭り。最大のミスでした。
それと、用紙が厚手すぎて、よむときパリパリで手になじ
まない。本のやわらかく手に馴うやさしさがないーと。これは、
ふうこさんのさっそくの苦情。ほんまです

何かと忙しいでしょうが(義理又借のついでに)ともか
くざっとでもよんでみて下さい。そして〈詩〉!という特
別扱いでなく、雑記やメモをよんだときのようなものとて
なんか、「感想」の一言でも下さると、この上のよろこびは
ありません。(III章はいずれも長くてタイクツするやもナ
と思ってます。とくに終りの二篇は。行動ルポと作戦
要綱の記録〜〜よんで下さると幸いです)

83.10.13　何十　考

(ご注意)この封筒に貼付した切手のスタンプは消しゴム
で消えます。ノリが表面にぬってあるのです。
ついでの折・カンパ代りに返送して下さい。